

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

日本の海事工学に関する博物館について(その2):
東北地方

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 庄司, 邦昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/589

日本の海事工学に関する博物館について(その2) —東北地方—

庄 司 邦 昭

On the Museums on Marine Engineering in Japan (Part 2) — The Tohoku district — Kuniaki Shoji

Abstract

It is important issue to research on the museums by collecting data about marine engineering. Author researched data of foreign countries from 1989 to 1996 and those are already reported. In Japan he has reported on the museums in Hokkaido area in last year. In this paper author collected the museums which concerned marine engineering in the Tohoku district in Japan.

1. 緒言

世界各地に保存されている船舶関係資料について実態を調査することは、海事工学の発展にとって重要なことであると考えられる。

著者は以前に1989年から1996年にわたり、諸外国における調査結果を文献調査と現地調査によって纏めてきた⁽¹⁾⁻⁽⁷⁾。また昨年からは日本における船舶関係資料について調査を始めた⁽⁸⁾。本報告は日本における調査の第2報として東北地方における海事資料について調査したので以下に報告する。

2. 現地調査結果

(1) 岩手県立水産科学館(岩手県宮古市)

館内は「いわての海」、「漁業と暮らし」、「躍進するいわての水産」の3部門にわかれている。「いわての海」ではいわての海岸のすがた、いわての海岸の特色、いわての漁場の特色、いわての海の魚たち、スタディコーナーにわかれ、「漁業と暮らし」では漁業のはじまり、漁村のあゆみ、漁家の儀礼と信仰、網漁具と漁法、釣漁具と漁法、雑漁具と漁法、副漁具と航海具、「海の一日」映像コーナーにわかれ、「躍進するいわての水産」ではいわての漁場の開拓、未来のいわての漁場、「明日をめざして」マルチスクリーンコーナー、サケ・アワビ・ワカメ・ホタテガイ・ウニ、いわての漁港、「増養殖技術」映像コーナー、おさかなコーナーにわかれて展示がされている。

そのなかで、下記データに示すような模型船や実物の小型船が展示されている。また館外にも実物の漁業関係の船が展示されている。



写真1 岩手県立水産科学館



写真2 サッパ舟(みやこ丸)

〈データ〉

名 称：岩手県立水産科学館(岩手県宮古市)

英 名：Iwate Prefectural Fisheries Science Museum

所 在 地：027 岩手県宮古市日立浜町32番地28

交 通：国鉄宮古駅より約4km，宮古駅より奥浄土ヶ浜行バスにてターミナルビル下車徒歩5分

郵 便：同上

電 話：0193-63-5353

ファクシミリ：0193-64-4855

所 属：岩手県

開 館：1986年(昭和61年)4月18日

入館時間：9時～16時30分(入館は16時まで)

休 館 日：月曜日(国民の祝日のときは翌日)

入 館 料：大人290円，学生140円，小中高生無料

写真撮影：可

印 刷 物：岩手県立水産科学館(無料パンフレット)

展 示：○サッパ船(みやこ丸)

○底曳網漁船模型

○サンマ棒受網漁船模型

○船尾式底曳網漁船模型

○延縄漁船模型

○ブリガンティン型帆船模型

○櫓や櫂，信号灯などの航海用具

〈館外〉

○伝馬船(べか舟)

宮古市重茂 吉川茂喜氏寄贈

大型船，動力船と浜，岸壁との間の通り船に使用。

またタナゴ等の漁にも使用。

○救難船「みちのく」

8.99GT，長さ10.76m，幅2.63m，昭和53年8月15日建造

[1997年6月17日(火曜日)現在]

(2)秋田県立博物館(秋田県)

秋田県では1967年(昭和42年)1月の秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画が立案された。その後、1969年(昭和44年)に博物館建設実行委員会ができ、1971年に博物館建設準備室が社会教育課の中におかれ、この年の12月に博物館構想委員が委嘱された。1972年3月に博物館設立構想が完成し、博物館設立準備事務局がおかれた。建設工事は1973年(昭和48年)7月に開始され、1974年(昭和49年)11月に建物が完成し、12月から展示作業が始められた。1975年(昭和50年)5月5日に開館式を迎え、5月10日から一般公開を始めた。

秋田県立博物館は最寄り駅からやや離れているので交通の便はあまりよくないが、男潟、女潟に面した自然環境に恵まれたところにある。舟の展示はエントランスホールにある2隻の舟だけだがこの地方の実物の舟を見ることができる。本館から10分程のところにある宝暦年間(1751年～1763年)に建築され国の重要文化財に指定されている旧奈良家住宅がある。ここは県立博物館の分館になっていて建物の中の座敷へも上がって見ることができる。

県立博物館にしては係の方が皆、大変親切で良い印象をもって見物できた。月曜日でなく木曜日を休館日にして秋田市内の博物館や美術館と休館日が重ならないようにしていたり、無料公開日を設けたり、外国から館員を呼んで交流するなど博物館としての意気込みが感じられた。



写真3 秋田県立博物館

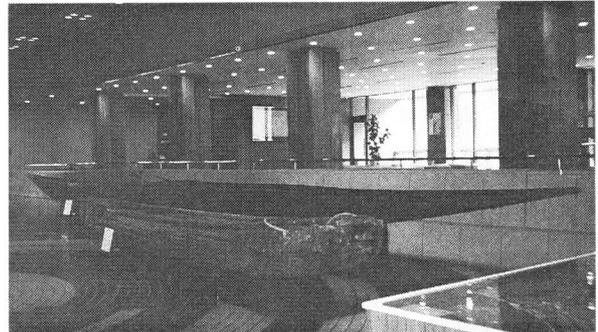


写真4 男鹿の丸木舟(手前)と米代川の川舟(奥)

〈データ〉

名 称：秋田県立博物館

英 名：Akita Prefectural Museum

所 在 地：01001秋田市金足鳩崎字後山52

交 通：国鉄奥羽本線男鹿線追分駅下車徒歩20分

電 話：0188-73-4121

ファクシミリ：

所 属：秋田県

開 館：1975年(昭和50年)5月

入館時間：9：30～16：30(4月1日～10月31日、入館16：00まで)

9：30～16：00(11月1日～3月31日、入館15：30まで)

休 館 日：木曜日(1, 2, 3月以外の祝日と重なったときには翌日)、

12月28日～1月3日、1月～3月の国民の祝日、全館くんじょう消毒期間

無料公開日：5月5日(こどもの日)、8月29日(県の記念日)、

9月15日(敬老の日)、11月3日(文化の日)

入 館 料：一般250円、高校大学生110円、小中学生50円

写真撮影：可

印刷物：秋田県立博物館(無料パンフレット)

展示：○男鹿の丸木舟

約150年前に男鹿真山の天然杉を使って丸木ハギと呼ばれる地元の船大工によって製作されたクリ舟。親子三代にわたり1970年(昭和45年)まで使われた。男鹿半島では一般に「えぐり舟」と呼ばれ、岩場の漁撈には最適だった。ただし重いために操船には技術が必要であったことと動力の導入にも適しなかったため次第に使用されなくなった。

採集地 男鹿市加茂, 長さ5.75m, 幅90cm

○米代川の川舟

米代川の川舟は阿仁銅山と盛衰をともにした舟で、俗に「ズアイ舟」といわれる。舟の側部と底部の一部を構成するように削られたオモキを主要船材にしている。底部をシキ、側部をハタと呼び、トモ(船尾部)よりオモテ(船首部)の幅が3～4寸広く、トモ上がりは2～3寸高くなっている。もとは荷物の運搬を主にしていたが、近年はアユなどの川漁に使われている。竿で操作するが深いところではネリガイを使う。

採集地 二ツ井町下田平, 全長13.8m, オモテ幅26cm, 胴間幅84cm, トモ幅36cm

[1995年3月27日(月曜日)現在]

(3) 田沢湖町立郷土史料館(秋田県田沢湖町)

田沢湖町では、明治百年の記念事業として、田沢湖町における民俗資料を収集保存し一般に公開するため、1051万円の経費で高床式鉄骨造りの史料館を建設し、1970年(昭和45年)11月30日に竣工した。展示品としては、重要民俗資料の指定を国から受けた「田沢湖の丸木舟」をはじめとする漁撈具を中心に石器、土器、衣類、什器、生活用品や農耕、山樵、狩猟、養蚕、馬産、染織、手工業などの民俗資料がある。田沢湖町玉川地区の狩猟民「玉川マタギ」が冬期に用いた衣装、「仙北おぼこ」の農作業のときの衣装、南部の曲がり家の系統をひく田沢湖付近における代表的な住居の台所、「白岩瀬戸」とよばれる白岩焼の壺などはこの地方独特のものである。

「田沢湖の丸木舟」は1900年頃(明治30年頃)につくられたもので、1964年(昭和39年)8月27日に国の重要民俗資料としての指定をうけた。この舟は田沢湖で「くにます」や「うぐい」をとるために用いられ、杉の原木を一度、角材にしてこれをくり抜いてつくられる。従って船体横断面は真四角に近く、舷側の膨らみは殆どない。木の根元の方を船尾にして製作した。このあたりの人々は「エグリブネ」と呼んでおり、昭和の初期には約50隻の丸木舟が田沢湖で活躍していた。「田沢湖の丸木舟」はこの史料館のほか、秋田経済法科大学にも保存されている。



写真5 田沢湖町立郷土史料館

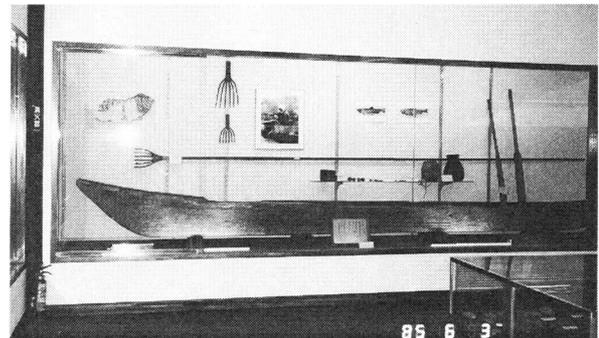


写真6 田沢湖の丸木舟

〈データ〉

名 称：田沢湖町立郷土史料館

所 在 地：01412 秋田県仙北郡田沢湖町田沢字春山197

電 話：(0187)43-0740

交 通：国鉄田沢湖線，田沢湖駅から田沢湖行きバスで田沢湖畔下車，徒歩5分

所 属：田沢湖町

開館年月：1970年11月

入館時間：9:00～16:30(4月20日頃～11月10日)

休 館 日：上記期間中無休，冬季は休館

入 館 料：大人200円，小中学生150円

写真撮影：可

出 版 物：○田沢湖町立郷土史料館(無料パンフレット)

展 示：○田沢湖の丸木舟

国指定重要民俗資料。杉材くりぬき一木造り。長さ5.76m，幅0.42m，深さ0.30m，船首舷弧0.25m，船尾舷弧0.10m。

○權

田沢湖の丸木舟を漕ぐために使用した。

○きつつ

杉の大木をくり抜いた長方形の舟。神代地区にある大沼でじゅんさいや鯉などをとるのに用いた。

全長2.70m，幅0.67m，深さ0.22m。

○ないぶね

田植えのときに苗を入れて引っ張って歩いた。全長0.81m，幅0.28m，深さ0.10m。

参考文献 ○考古学ライブラリー編集部編：博物館・資料館案内Ⅰ，ニュー・サイエンス社，考古学ライブラリー7，p.23(1984年1月20日再版発行)

○全国美術館会議編：全国美術館ガイド，美術出版社，p.49(1992年1月10日発行)

○川崎晃稔：日本丸木舟の研究，法政大学出版局，pp.118-120，pp.483-485(1991年2月28日初版第1刷発行)

[1985年6月3日現在]

(4) 八戸市博物館(青森県八戸市)

1941年(昭和16年)に根城跡として国の史跡に指定された場所の一角に，八戸市博物館は建設された。煉瓦色の近代的な建物の中に，考古展示，歴史展示，民俗展示，無形資料展示の部門に分けて展示がなされている。

船の展示は六ヶ所村泊の沿岸で使われていたマルキブネと，民俗展示のコーナーにあるカッコと呼ばれる磯舟の実物である。

建物の立派さに見合うようにまた博物館の権威を保つために館内の写真撮影を禁止にしているのだろうか，大変に残念なことである。



写真7 八戸市博物館

〈データ〉

名称：八戸市博物館

所在地：031 青森県八戸市大字根城字東構35の1

電話：0178-44-8111

交通：国鉄東北本線八戸駅からバス，司法センター通り経由根城(博物館前)下車 徒歩1分
国鉄八戸線長苗代(ながなわしろ)駅下車 徒歩20分

開館年：不明

所属：八戸市

入館時間：9：00～16：00

休館日：月曜日(国民の祝日と重なる場合には翌日)，祝日の翌日，年末年始(12月27日～1月4日)，毎月末日
(館内整理日)

入館料：大人200円，高校大学生150円，小中学生50円

写真撮影：不可

出版物：八戸市博物館(無料パンフレット)

展示：○マルキブネ(六ヶ所村泊の浜飯専松氏寄贈)

この丸木舟は江戸時代の終わりに作られて、最近(昭和時代末)まで泊の沿岸で使われていたものである。

ブナの木をくりぬいて作られており、舟の古い形態が残されている。

〈民俗展示〉

○カッコ(大久喜法師浜漁業民俗保存会)

沿岸で使う磯舟。浜の人々は海へ出るのに、カッコと呼ぶ櫂や櫓を用いる手漕ぎの磯舟を使った。沖合いへはテントという大型の船を用いた。

[1994年6月16日(木曜日)現在]

3. 文献調査結果

文献^{(9)～(15)}から、船舶関係資料をもつと思われる博物館について調査した。その結果を県別にまとめ以下に示す。この中で◎印は現地調査した施設である。

〈青森県〉

○青森県立郷土館

英 名：Aomori Prefectural Museum
住 所：030 青森市本町2-8-14
電 話：0177-77-1585(代)
交 通：東北本線青森駅より徒歩20分
所 属：青森県
開館時間：9時30分～16時30分(4月～9月), 9時30分～16時(10月～3月)
入館時間：閉館の30分前まで
休 館 日：月曜日, 祝日, 12月27日～1月4日, 毎月末日(日曜日の場合は前日)
入 館 料：有料
展 示：漁撈関係資料

○小川原湖民俗博物館

英 名：Ogawarako Folk Museum
住 所：033 三沢市字古間木山56
電 話：0176-51-1111
交 通：東北本線三沢駅より徒歩2分
所 属：十和田開発株式会社
開 設：1961年(昭和36年)8月
開館時間：8時～18時
休 館 日：無休
入 館 料：大人800円, 小中高校生500円, 小人100円
展 示：小川原湖周辺の漁具, 青森県指定文化財の丸木舟

○佐井村海峡ミュージアム

英 名：Saimura Channel Museum
住 所：03947 下北郡佐井村字大佐井112 津軽海峡文化館内
電 話：0175-38-4506
交 通：青森港から佐井港へ高速船「ほくと」にて, むつ市より佐井村下北交通バス
所 属：
開 設：1990年(平成2年)6月1日
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：4月～10月 無休, 11月～3月 月曜日, 12月28日～1月4日
入 館 料：大人300円, 高校大学生150円, 小中学生50円
展 示：海運で栄えた佐井の歴史や文化

○十和田科学博物館

英 名：Towada Museum of Natural History
住 所：01855 上北郡十和田湖町休屋

電 話：0176-75-2121
交 通：東北本線青森駅，三沢駅よりバス，花輪線十和田南駅よりバス，休屋下車
所 属：十和田開発株式会社
開 館：1953年(昭和28年)8月28日
開館時間：8時～17時
休 館 日：11月～4月 無休
入 館 料：大人100円，小人50円
展 示：漁撈具

○野辺地町立歴史民俗資料館

英 名：Noheji-Machi Lokal Folk Historical Material Hall
住 所：03931 上北郡野辺地町字野辺地1-2
電 話：01756-4-9494
交 通：東北本線野辺地駅下車，十和田観光バス野辺地中央下車徒歩5分
所 属：野辺地町
開 館：
開館時間：9時～16時
休 館 日：月曜日，祝日，館内整理日，年末年始
入 館 料：大人100円，小人50円
展 示：海運資料

○八戸市水産科学館

英 名：Hachinohe Marine Science Hall
住 所：031 八戸市大字鮫町字下松苗場14-33
電 話：0178-33-7800
交 通：国鉄八戸線鮫駅下車徒歩15分
所 属：八戸市
開館時間：9時～17時(7・8月は18時まで)
休 館 日：月曜日(7・8月は無休)，12月31日～1月1日
入 館 料：大人・大学生500円，高校生350円，中学生250円，小学生200円
展 示：漁具

◎八戸市博物館

英 名：Hachinohe Historical Museum
住 所：031 八戸市大字根城字東構35-1
電 話：0178-44-8111
交 通：東北本線八戸駅より田面木経由の三日町行，八日町行，小中野バスセンター行バス，根城博物館前
下 車
所 属：八戸市
開 設：1983年(昭和58年)7月

開館時間：9時～16時

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)祝日の翌日，毎月末日，12月27日～1月4日

入館料：大人200円，高校大学生150円，小中学生50円

展示：漁具

○八戸市歴史民俗資料館(是川考古館)

英名：Hachinohe Folk Historical Material Museum

住所：036 八戸市是川字中居3-1

電話：0178-96-1484

交通：東北本線八戸駅より南部バス，三日町下車徒歩3分で朔日町より乗り換え，考古館前下車

所属：八戸市

開館時間：9時～16時

休館日：月曜日，祝日の翌日，毎月末日，12月27日～1月4日

入館料：大人150円，高校大学生100円，小中学生50円

展示：漁具

○深浦町立歴史民俗資料館

英名：Furukawa-Machi Folk Historical Material Hall

住所：03823 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢80-1

電話：0173-74-3882

交通：五能線深浦駅より徒歩6分

所属：深浦町

開館：1980年(昭和55年)11月3日

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日，祝日，12月28日～1月4日

入館料：一般200円，高校大学生100円，小中学生50円

展示：「北前船」復元船，漁具など産業資料

○六ヶ所村立郷土館

英名：Rokkasho Historical Museum

住所：03932 上北郡六ヶ所村大字尾駮字野附535

電話：0175-72-2306/2307

交通：国鉄野辺地駅下車バス六ヶ所村役場前下車，国鉄大湊線吹越駅より車で15分

所属：六ヶ所村

開館：1991年(平成3年)8月3日

開館時間：9時～16時

休館日：月曜日，祝日の翌日，12月28日～1月4日

入館料：無料

展示：重要民俗資料「泊のまるきぶね」，泊の漁業

○横浜町立郷土館「潮騒荘」

英 名：Yokohama-Machi Lokal Material Hall
住 所：03941 上北郡横浜町字ひばり平1-16
電 話：017578-3286
交 通：大湊線吹越駅よりむつ行バス，はまなす公園下車徒歩10分
所 属：横浜町
開館時間：希望により随時開館（公園管理人に申し込む）
休 館 日：
入 館 料：無料
展 示：漁具

○蓬田村民俗資料室

英 名：Yomogida-Mura Folk Material Hall
住 所：03012 東津軽郡蓬田村郷沢字浜田138
電 話：0174-27-2111（蓬田村教育委員会）
交 通：津軽線郷沢駅より徒歩5分
所 属：蓬田村
開 室：1974年（昭和49年）4月
開館時間：希望により随時開館
休 館 日：
入 館 料：
展 示：漁具

〈岩手県〉

◎岩手県立水産科学館

英 名：Iwate Prefectural Fisheries Science Museum
所 在 地：027 岩手県宮古市日立浜町32番地28
交 通：国鉄宮古駅より約4Km，
宮古駅より奥浄土ヶ浜行バスにてターミナルビル下車徒歩5分
電 話：0193-63-5353
所 属：岩手県
開 館：1986年（昭和61年）4月18日
入館時間：9時～16時30分（入館は16時まで）
休 館 日：月曜日（国民の祝日のときは翌日）
入 館 料：大人290円，学生140円，小中高生無料
写真撮影：可
印 刷 物：岩手県立水産科学館（無料パンフレット）
展 示：○サッパ船（みやこ丸）
○底曳網漁船模型
○サンマ棒受網漁船模型

- 船尾式底曳網漁船模型
- 延縄漁船模型
- ブリガンティン型帆船模型
- 櫓や櫂，信号灯などの航海用具
〈館外〉
- 伝馬船(ベカ舟)
宮古市重茂 吉川茂喜氏寄贈
大型船，動力船と浜，岸壁との間の通り船に使用。
またタナゴ等の漁にも使用。
- 救難船「みちのく」
8.99GT，長さ10.76m，幅2.63m，昭和53年8月15日建造

○岩手県立広田水産高等学校附属博物館

英 名：Fisheries Museum of Hirota Fisheries High School
住 所：02926 陸前高田市広田町字大久保124
電 話：01925-6-3500
交 通：大船渡線小友駅下車，バス広田線広田小学校前下車
所 属：岩手県
開 館：1952年(昭和27年)
開館時間：9時～17時
入館時間：16時まで
休 館 日：日曜日，祝日，振替休日
入 館 料：無料
展 示：漁船模型

○岩手県立宮古水産高校博物館

住 所：宮古市磯鶏
電 話：01936-2-1430
交 通：宮古駅より磯鶏行バス，水産高校前下車
開 館：
開館時間：
休 館 日：日曜日，祝日
入 館 料：大人30円，小人30円
展 示：帆船の模型，コンパス

○大船渡市立博物館

英 名：Ofunato City Museum
住 所：022 大船渡市末崎町字大浜221-86
電 話：0192-29-2161
交 通：大船渡線細浦駅より基石行バスで17分，終点下車

所 属：大船渡市
開 設：1955年(昭和30年)4月
開館時間：9時～16時
休 館 日：月曜日，祝日，12月28日～1月4日，2月1日～7日
入 館 料：大人200円，高校生150円，小中学生100円
展 示：国指定重要有形民俗文化財「大船渡のまるた」と呼ばれる丸太舟2隻

○北上市立博物館

英 名：Kitakami Municipal Museum
住 所：024 北上市立花14地割59
電 話：0197-64-1756
交 通：東北新幹線，東北本線北上駅より江刺バスセンター行または熊沢行バスで15分，展勝地下車
所 属：北上市
開 設：1973年(昭和48年)4月
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：月曜日，祝日の翌日，12月28日～1月4日
入 館 料：大人200円，高校生150円，小中学生100円
展 示：江戸時代の北上川舟運資料，川舟小屋

○碧祥寺博物館

英 名：Hekishoji Museum
住 所：02956 和賀郡沢内村太田
電 話：019786-66
交 通：北上線陸中川尻駅より盛岡川舟行バス30分，太田下車徒歩2分
所 属：碧祥寺
開 設：1969年(昭和44年)4月
開館時間：9時～17時
休 館 日：無休
入 館 料：大人300円，高大学生170円，小中学生130円
展 示：丸木舟(国の重要民俗資料)

○山田町立鯨と海の科学館

英 名：Yamada-Cho Science Museum of Whale and Sea
住 所：02813 下閉伊郡山田町船越7-50-1
電 話：0193-84-3985
交 通：国鉄山田線岩手船越駅下車，徒歩5分
所 属：山田町
開 設：1992年(平成4年)7月4日(三陸，海の博覧会に併せ)
開館時間：9時～16時30分(入館は16時まで)
休 館 日：火曜日(1月～3月)，12月1日～10日，12月29日～1月3日

入館料：大人600円，高大学生400円，小中学生300円

展示：捕鯨

〈宮城県〉

○石巻文化センター

英名：Ishinomaki Culture Center

住所：986 石巻市南浜町1-7-30

電話：0225-94-2811

交通：石巻線，仙石線石巻駅より市内循環バス，日魯漁業前下車徒歩5分

所属：石巻市

開設：1986年(昭和61年)11月2日

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日(祝日は開館)，祝日の翌日(土，日は開館)，12月28日～1月4日

入館料：大人200円，高校生100円，小中学生50円

展示：ベザイ船の一部実物大模型，漁業に関する資料

○おしかホエールランド

英名：Oshika Whale Land

住所：98625 牡鹿郡牡鹿町大字鮎川浜字南61

電話：0225-45-3149

交通：仙石線石巻駅より鮎川バス90分，博物館前下車

所属：牡鹿町

開設：1990年(平成2年)10月鯨博物館にかわって新しく開館

開館時間：9時～17時(入館は16時まで)

休館日：12月1日～3月31日の火曜日(祝日の場合は開館)

入館料：大人1000円，高校大学生800円，小中学生600円

展示：勢子船模型，南氷洋捕鯨船団の模型，捕鯨母船の断面図

○鹽竈神社博物館

英名：Museum of Shiogama Shrine

住所：985 塩釜市一森山1-1

電話：022-362-1049

交通：東北本線塩釜駅より徒歩20分，仙石線本塩釜駅より徒歩15分

所属：鹽竈神社

開設：1965年(昭和40年)11月3日

開館時間：9時～17時(4月～10月)，9時～16時(11月～3月)

休館日：無休

入館料：大人200円，中高校生150円，小人80円

展示：丸木舟，漁船模型，特殊船模など50点，漁業に関する資料

○タイムシップ塩竈歴史展示室

英 名：Museum of Timeship Shiogama
住 所：985 塩竈市本町1-1 塩竈市民図書館内展示室
電 話：022-365-4343
交 通：仙石線本塩釜駅より徒歩2分
所 属：塩竈市
開 設：1991年(平成3年)3月15日
開館時間：10時～18時(土日は16時まで)
休 館 日：月曜日、祝日、月末、12月27日～1月4日
入 館 料：無料
展 示：千石船模型

○中田町立中央公民館民俗資料室

英 名：Local Room of Nakata-Cho Main Public Hall
住 所：98705 登米郡中田町宝江黒沼字浦38
電 話：02203-4-2090
交 通：東北本線瀬峰駅より宮城交通バス登米行、黒沼十文字下車徒歩20分
所 属：中田町
開 設：
開館時間：
休 館 日：
入 館 料：
展 示：丸木舟

〈秋田県〉

○秋田経済法科大学雪国民俗研究所付設資料館

英 名：The Museum of the Snowy Country-Folkways of the Attached Akita
住 所：010 秋田市下北手桜字守沢46-1 秋田経済法科大学内
電 話：0188-36-1312(総務課)
交 通：奥羽本線秋田駅より秋田経済法科大行バス、秋田経法大前下車
所 属：秋田経済法科大学
開 設：1960年(昭和35年)8月
開館時間：9時～16時
休 館 日：日曜日、祝日、大学の休校日
入 館 料：無料
展 示：大沼のきつつ

◎秋田県立博物館

英 名：The Akita Prefectural Museum
住 所：01001 秋田市金足鳩崎字後山52

電 話：0188-73-4121(代)
交 通：奥羽本線追分駅より徒歩15分,
または秋田駅前よりバス金足高岡線博物館前下車
所 属：秋田県
開館日：1975年(昭和50年)5月10日
開館時間：9時30分～16時30分(4月～10月), 9時30分～16時(11月～3月)
休館日：木曜日(4月～12月の祝日で木曜日と重なる場合は翌日),
1月～3月の祝日, 12月28日～31日, 1月2日～3日
入館料：大人250円, 高校大学生110円, 小中学生50円
展 示：男鹿の丸木舟, 米代川の川舟

○井川町歴史民俗資料館

英 名：Ikawa-Machi Folk Historical Material Hall
住 所：01815 南秋田郡井川町北川尻字海老沢樋口79-2
電 話：0188-74-3919
交 通：奥羽本線羽後飯塚駅よりバス井川線役場前下車, 五城目線浜井川下町下車, 徒歩7分
所 属：井川町
開 設：1980年(昭和55年)8月1日
開館時間：9時～17時(4月～10月), 9時～16時(11月～3月)
休館日：月曜日, 祝日, 12月28日～1月3日
入館料：無料
展 示：八郎湖の漁具

○大曲市花館民俗資料館

英 名：Omagari Municipal Material Hall
住 所：014 大曲市花館中町2-58
電 話：0187-62-0547
交 通：奥羽本線大曲駅より徒歩20分,
羽後交通バスターミナルより秋田行消防署前下車
所 属：大曲市
開 設：1973年(昭和48年)8月
開館時間：9時～16時, 随時申し込みにより
休館日：特に設けていない
入館料：無料
展 示：雄物川蛭川渡し場の歩行船と馬船

○白瀬南極探検隊記念館

英 名：Antarctic Museum
住 所：01803 由利郡金浦町黒川字岩湯15-3
電 話：0184-38-3765

交 通：国鉄羽越本線金浦駅より徒歩20分
所 属：金浦町
開 設：1990年(平成2年)4月21日
開館時間：9時～17時(3月～10月)，9時～16時(11月～2月)
休 館 日：月曜日(祝日の場合翌日)，12月29日～1月3日
入 館 料：大人600円，小中学生400円
展 示：開南丸模型，船長航海日誌

○昭和町歴史民俗資料館

英 名：Showa-Machi Folk Historical Material Hall
住 所：01814 南秋田郡昭和町大久保字元木山根51
電 話：0188-77-4131(教育委員会)
交 通：奥羽本線大久保駅より徒歩20分，
秋田駅より中央交通バス五城目線にて元木下車徒歩15分
所 属：昭和町
開 設：1971年(昭和46年)3月
開館時間：
休 館 日：日曜日，祝日
入 館 料：無料
展 示：敷地内に八郎潟漁撈用具収蔵庫

○田沢湖町立郷土史料館

英 名：Tazawako-Machi Local Material Hall
住 所：01412 仙北郡田沢湖町田沢字春山145-1
電 話：0187-43-0740
交 通：田沢湖線田沢湖駅より羽後交通バス乳頭線，田沢湖一周線，
田沢湖畔下車徒歩3分
所 属：田沢湖町
開 設：1970年(昭和45年)11月30日
開館時間：8時30分～17時(4月20日～11月10日)
休 館 日：期間中無休，11月11日～4月19日
入 館 料：大人200円，小中学生150円
展 示：重要民俗資料の丸木舟

○仁賀保町勤労青少年ホーム展示室

英 名：Nikaho-Machi Local Room
住 所：01804 由利郡仁賀保町平沢字中町79
電 話：0184-35-4711
交 通：国鉄羽越本線仁賀保駅より徒歩3分
所 属：仁賀保町

開 設：1962年(昭和37年)
開館時間：9時～17時(4月～10月)，9時～16時30分(11月～3月)
休 館 日：月曜日(祝日の場合翌日)，12月29日～1月3日，8月13日～15日
入 館 料：大人150円，学生・小人100円
展 示：カワサキ舟模型

○仁別森林博物館

英 名：Nibetsu Forest Museum
住 所：010 秋田市仁別字務沢国有林
電 話：0188-27-2323
交 通：奥羽本線秋田駅より仁別行バス，終点下車徒歩3分(日曜祝日のみ運行)
所 属：国立
開 館：1964年(昭和39年)10月
開館時間：9時～16時(5月～11月中旬)
休 館 日：冬期(11月中旬～4月中旬，降雪のため)
入 館 料：高校生以上100円，小人50円
展 示：秋田杉の丸木舟

○八郎潟漁撈用具収蔵庫

英 名：Hachiro-Gata Fishery Preservation Hall
住 所：01814 南秋田郡昭和町大久保字元木山根51
電 話：0188-77-4131(教育委員会)
交 通：奥羽本線大久保駅より徒歩15分，
秋田駅より中央交通バス五城目線にて元木下車徒歩15分
開 設：1961年(昭和36年)12月
開館時間：
休 館 日：日曜日，祝日，12月28日～1月4日
入 館 料：無料
展 示：国指定重要有形民俗文化財の八郎潟漁撈用具

〈山形県〉

○大石田町立歴史民俗資料館

英 名：Oishida-Machi Historical Folklore Museum
住 所：99941 北村山郡大石田町大字大石田乙37-6
電 話：0237-35-3440
交 通：奥羽本線大石田駅下車徒歩10分
所 属：大石田町
開 設：1978年(昭和53年)5月1日
開館時間：10時～16時30分
休 館 日：月曜日，祝日の翌日，毎月末日，年末年始

入館料：大人100円，学生50円，小人30円

展示：最上川舟運関係資料

○酒田市立資料館

英名：OSakata-City Hall

住所：998 酒田市一番町8-16

電話：0234-24-6544

交通：羽越本線陸羽西線酒田駅下車徒歩15分

所属：酒田市

開設：1978年(昭和53年)4月1日

開館時間：9時30分～16時30分

休館日：月曜日(11月～3月)，12月29日～1月3日

入館料：大人100円，小中高生50円

展示：海運，川運，港関係資料

○致道博物館

英名：Chido Museum

住所：997 鶴岡市家中新町10-18

電話：0235-22-1199

交通：羽越本線鶴岡駅より湯野浜温泉行バス10分，致道博物館前下車

所属：財団法人致道博物館

開設：1950年(昭和25年)6月

開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：12月28日～1月1日

入館料：大人520円，高大学生350円，小中学生250円

展示：最上川水系の漁具，庄内浜の漁具

○中山町立歴史民俗資料館

英名：Nakayama-Machi Historical Folklore Material Hall

住所：99004 東村山郡中山町大字長崎6005

電話：0236-62-2175

交通：左沢線羽前長崎駅下車徒歩5分

所属：中山町

開設：1980年(昭和55年)11月3日

開館時間：9時30分～16時30分(4月～10月)，10時～16時(11月～3月)

休館日：月曜日，祝日，12月29日～1月4日

入館料：大人100円，学生50円，小人30円

展示：最上川舟運(小鵜銅船)用具

○山形大学附属郷土博物館

英 名：Museum of Yamagata University
住 所：990 山形市小白川町1-4-12
電 話：0236-31-1421
交 通：奥羽本線山形駅より東原回り千歳公園行バス10分，山形大学前下車
所 属：国立
開 設：1952年(昭和27年)4月
開館時間：9時～17時(土曜日は12時まで)
休 館 日：日曜日，祝日，12月28日～1月3日
入 館 料：無料
展 示：最上川舟運関係資料

〈福島県〉

○会津民俗館

英 名：Aizu Folklore Museum
住 所：96932 耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田33-1
電 話：0242-65-2600(代)
交 通：磐越西線猪苗代駅より会津若松行バス，野口記念館下車徒歩2分
所 属：財団
開 設：1967年(昭和42年)5月1日
開館時間：8時～17時(4月1日～11月15日)，
8時30分～17時30分(11月16日～3月31日)
休 館 日：木曜日(12月1日～3月15日，年末年始，祝日を除く)
入 館 料：大人500円，学生360円，小人260円
展 示：猪苗代湖漁具

○奥会津南郷民俗館

英 名：Okuaizu Nango Folk Museum
住 所：96706 南会津郡南郷村大字界字川久保552
電 話：0241-73-2829(教育委員会)
交 通：磐越西線只見駅または東武鬼怒川線会津田島駅より南郷行バス，界温泉下車
所 属：南郷村
開 設：1981年(昭和56年)11月1日
開館時間：9時～16時(5月～11月)
休 館 日：水曜日，12月1日～4月30日(冬期)
入 館 料：大人150円，小中高生150円
展 示：伊南川の漁労用具

4. 結言

本報告では東北地方における4施設についての現地調査と4施設についての文献調査結果を示した。文献調査結果を県別にみると青森県12施設、岩手県7施設、宮城県5施設、秋田県10施設、山形県5施設、福島県2施設となっている。これによると福島県の海岸地域の船などについての資料が不足している。今後もさらに詳細な調査をする必要がある。

参考文献

- (1) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その1)－西ドイツの博物館－，東京商船大学研究報告(人文科学)第40号，pp.83-99 (1989年12月)
- (2) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その2)－西ドイツ(続)・オランダ・ベルギー－，東京商船大学研究報告(人文科学)第41号，pp.89-114 (1990年12月)
- (3) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その3)－ノルウェー・スウェーデン・デンマーク－，東京商船大学研究報告(人文科学)第42号，pp.73-91 (1991年12月)
- (4) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その4)－イギリス・フランス・イタリア・スロベニア－，東京商船大学研究報告(人文科学)第43号，pp.87-106 (1992年12月)
- (5) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その5)－アメリカ－，東京商船大学研究報告(人文科学)第44号，pp.41-67 (1993年12月)
- (6) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その6)－中国－，東京商船大学研究報告(人文科学)第45号，pp.13-19 (1995年3月)
- (7) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その7)－オーストラリア・ニュージーランド－，東京商船大学研究報告(人文科学)第46号，pp.1-26 (1996年2月)
- (8) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について(その1)－北海道－，東京商船大学研究報告(人文科学)第46号，pp.15-31 (1997年2月)
- (9) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰ－考古・歴史・民俗－，ニューサイエンス社(1984年1月)
- (10) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰ－教育委員会・埋文センター・研究会一覧－，ニューサイエンス社(1984年1月)
- (11) 全国美術館会議編：全国美術館ガイド，美術出版社(1992年1月10日)
- (12) 樋口秀雄・加藤有次監修：父と子の博物館，富士書店(1976年7月)
- (13) 加藤有次監修：ユニーク博物館，毎日新聞社(1985年5月)
- (14) 秋田県博物館等連絡協議会編集，発行：秋田の博物館ガイド(1994年3月)
- (15) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧，第1巻，ぎょうせい(1995年6月)